

懸賞SA 解答 2022年 9月号

問1 正解⑤ 思想及び良心は、個人の内心に属するものであり、他者の人権や社会的利益と衝突することはあり得ないから、公共の利益により制約されることはなく、いかなる理由をもってしても、公権力が思想・良心の自由に制約を加えることはできない。したがって、憲法の基本理念を否定するような思想であっても、それが外部に表現されない限りは、絶対的に保障される。

問2 正解② 都道府県知事は、都道府県警察の運営について、都道府県公安委員会に対して指揮命令権を有しているわけではない。というのも、都道府県公安委員会は、都道府県知事の所轄の下に置かれているところ、ここでいう「所轄」とは、指揮命令権のない所属関係を意味するからである。

問3 正解③ 既に犯罪を決意している者を唆しても、教唆犯は成立しない。その決意を強めたような場合には、従犯（幫助犯）が成立することになる。

問4 正解① 準現行犯逮捕は、現行犯逮捕の一種であるから、警察官に限らず、一般私人でも行うことができる（刑訴法212条2項、213条）。なお、一般私人が逮捕した後、直ちに検察官又は司法警察職員に引き渡さなければならないことも同様である（刑訴法214条）。

問5 正解④ 地方公務員法上の懲戒処分の種類としては、免職、停職、減給、戒告が挙げられる。なお、降任は、同法における分限処分の種類の一つである。

問6 正解③ 少年の処遇に当たっては、処遇の個別性が求められており、その少年に対する保護の必要性の程度に応じて、個別具体的な処遇がなされなければならない。

問7 正解④ 参考人の事情聴取に当たっては、相手の人柄、性格をよく考え、参考人に適した事情聴取をしなければならない。特に幼少者は暗示にかかりやすいので、注意を要する。

問8 正解⑤ 交通規制を行う際は、交通監視員等を配置するとともに、各種資機材を「外から内」へと迅速に配置する。資機材を外から配置するのは、交通規制前の突入車両による受傷事故を防止するためである。

問9 正解② 警衛の実施中に、一般事件や交通事故の発生を認知した場合には、警衛を理由にこれを放置することなく、必要な措置を講じなければならない。特に急を要する人命救助事案等については、これを最優先としなければならない。また、緊急自動車については、自動車お列を徐行又は一時停止させることなどにより、その優先通行を確保しなければならない。

問10 正解① イリオモテヤマネコは絶滅危惧種であって、絶滅の判定はなされていない。イリオモテヤマネコは、沖縄県西表島にのみ生息しており、環境省等の調査によると、現在の推定生息数は約100頭となっている。